

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和八年五月度 入賞句一覧

投句数 八百五十句



特選

高木 恵理 選

いちごがりあまずつぱいがつまつてる

大垣市

杉本 莉菜 (小六)

いちごの赤。あの赤は人をときめかせますよね。目の前で熟しているかわいらしい  
ちご。緑の葉っぱの中に、自分の好みのいちごを見つけた瞬間の「やった」という喜び  
が伝わってきます。そして、口に運ぶ前のわずかな緊張。摘みたてのいちごが舌の上で  
はじけます。「あまい」ではなく、「あまずつぱい」と表現したところがこの俳句の魅  
力です。

こいのぼりたまにはうみでおよぎたい

大垣市

仙田 新汰 (小六)

空を泳ぐのが当たり前のこいのぼり。気持ちよさそうだなあ、ととらえる俳句が多い  
のですが、作者は違います。「たまには海でおよぎたいな」という心の声をそつと拾っ  
たのです。読者は「そうか、こいのぼりはもつと自由になりたいのだな」と共感するの  
です。作者の豊かな想像力とユーモアの中に、優しさと夢が広がっている俳句です。

むらさきに公園そめるふじの花

大垣市

山田 啓士朗 (小六)

日本では、古くから藤の色は高貴な色とされてきました。公園に咲き誇る藤の花は、  
さぞかし圧倒的な存在感であったことでしょう。公園という日常の景色を、藤の花が一  
瞬で別世界へと変えてしまったようです。藤棚の下に立つたとき、光や空気までも紫に  
包まれているような気分になります。まさに、幽玄な景色を詠みあげている一句です。

秀逸

チョコバナナ急いで運ぶ桜道

大垣市

中村 朱里 (小五)

青葉ゆれ水をきりさくたらい舟

大垣市

萩野 一絆 (中一)

春休み前のクラスがこいしいな

大垣市

大橋 勇仁 (小三)

見つけたらハッピーになるクローバー

大垣市

棚橋 美月 (小四)

チューリップ早くさいてね顔見せて

大垣市

土屋 新 (小四)

おはなみでひつくりかえるおべんとう

大垣市

上田 葵愛 (小四)

太陽がぴかぴか光る春休み

大垣市

内田 侑里 (小六)

ふじのあめライトアップでひかるはな

大垣市

坂山 果穂 (小六)

はるのあさトーストやけてバターぬる

大垣市

大橋 朱里 (小六)

こいのぼり親子そろって空およぐ

大垣市

姉崎 想生 (小六)

# 入選

いちごがりいちごいくつかかぞえたよ  
さくらもちぴんくとみどりおにあいだ  
てんとう虫てくてくあるくはつばの上  
たけのこをぼくが見つけてほるじいじ  
はるかぜがふいたらきつとあいさつだ  
ははの日はお手つだいするありがとう  
つばめのす赤ちゃん口あけごはんまつ  
ゆびの上てんとう虫がのぼつてく  
さくらははなびらとあめがふつてくる  
はなのうえもんしろちようがとんでいる  
はなびらがあたまのうえにおちてきた  
タンポポはいつでもきいろひかっている  
空高く希望を持って綿毛飛べ  
うぐいすのこえがきこえるくいせがわ  
さくらちる気持ちを新たに歩きだす  
ともだちとひやつこたべるよいちごがり  
こいのぼり家族といっしょにそらのたび  
舟下りつばめの声が聞こえてる  
舟くだりアメンボあとをついてくる  
舟にのりすずしい風をうけながら

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

大垣市

こがた えま(小三)

いしづか ゆいり(小三)

かねだ みのり(小三)

古くら こうき(小三)

たち りんか(小三)

にしわき とうま(小三)

田中 あやと(小三)

くまがい みのり(小三)

大はし こうき(小三)

おか村 ちより(小三)

はぎの さら(小四)

戸田 ひな(小四)

いとう みなと(小六)

高木 暖太(小六)

園部 千晃(小六)

高田 麗華(小六)

藤江 乃々香(小六)

宮本 香織(小五)

川瀬 彩楓(小五)

田中 俊彰(小五)

# 小中学生の部

# 選者吟

アルプスへ放たれてゐる鯉のぼり

恵理

